

# たんぽぽ

「たんぽぽや いくたび踏まれて きょうの花」



八南小学校 校長室だより

令和6年 5月1日(水)

## あいさつの大切さ

朝、子どもたちの登校時に門の近くのところに立って、あいさつをして迎えるようにしています。できる限り、一人ひとりの子の顔を見てあいさつするように心がけています。多くの子は、あいさつを明るく返してくれるのですが、中には伏し目がちに黙って通りすぎる子もいます。こうした子を見ると、「何かあったのかな」「今日は体調がよくないのかな」と気になってしまいます。いつもあいさつを返してくれる子がこのような様子だと余計に心配になってきます。

あいさつの大切さはよく言われます。確かに、大人になってからも、最低限のマナーとしてあいさつのことは言われますし、あいさつができる人は周りから良い印象をもってもらえます。私は、子どもたちにあいさつの大切さを以下のように伝えたいと考えています。

- ・あいさつをすることは、「あなたのことを大切に考えているよ」という合図だよ。
- ・あいさつをすると自然と笑顔になれるよ。
- ・あいさつをすると、自分も相手もいい気持ちになれるよ。
- ・あいさつをきっかけにして、会話がはじまって、友だちができるよ。
- ・あいさつができる人は大人になってから、いい人と思ってもらえるよ。

あいさつは習慣になれば、自然にできるようになるものですが、習慣化するまでは、子どもにとってなかなか勇気のいることのように思えます。はじめは、小さな声でもいいし、笑顔で会釈するだけでもよいかなと思います。あいさつの心地よさを子どもたちに実感してほしいと思います。「率先垂範」という言葉があります。子どもにあいさつの大切さを伝えようと思うのなら、やはり大人が積極的にあいさつをして、見本を示していくことが大切だと思います。私も、朝、時間が許す限り、外に出て子どもたちにあいさつをして、あいさつの大切さを自らの姿で伝えていきたいと思っています。

## 八南小のよき伝統

八南小のよき伝統というか、子どもたちの行動で感心させられることがあるので、紹介します。それは、授業が始まる5分前になると、運動場で遊んでいた子たちが一斉に遊びをやめて教室に向かうのです。八南小学校は、2時間目と昼に長い休み時間があり、多くの子が運動場に出て、サッカーをしたり、鬼ごっこをしたり、ドッジボールをしたり、遊具で遊んだりして思い思いに体を動かして楽しんでいます。遊びに夢中になり、ついついチャイムが鳴るまで、遊び続けてしまうのではないかとふつうは思うのですが、5分前になると「びたっ」と遊びをやめて、みんな教室に向かっていくのです。私は、八南小に勤めはじめて、5年目になりますが、ずっとこの伝統は続いています。八南小に来たときに、この姿を見てたいへん驚いたことを覚えています。他の学校では、遊びを止める合図として、5分前に予鈴を鳴らすところもありますが、八南小は予鈴がありません。予鈴を鳴らさなくても、自分たちでこの行動ができるのです。八南っ子の良さは、まだまだありますが、さらに発見していきたいと思っています。

ご家庭でも、自分のお子さんを見る時に、「できてあたり前」とか「いつもやれていること」という見方で見ていると、なかなか、そのがんばりや良さに目が向きにくくなってしまいます。時には、できていない状態を想像しながら、お子さんの様子を見ていくことで、改めて我が子のがんばりや良さに気づくこともあるのではないのでしょうか。

※まもなく大型連休の後半が始まります。不安と緊張のスタートから1か月が過ぎ、子どもたちも疲れていると思います。連休中にしっかりとリフレッシュし、5月7日(火)にリスタートできるとよいかなと思います。連休明けのお子さんの様子には、いつも以上に気にかけていただければ幸いです。